

卒業論文の要旨

論文題目	柳宗悦の神秘思想とプロティノスの一者思想—柳の初期著作を通して—
氏名	高橋 勇真
メジャー	哲学
(要旨)	
<p>本稿では、柳宗悦の宗教哲学とプロティノスの哲学との比較、考察を目的とする。柳は民芸運動を起こした思想家として著名であるが、初期思想の中心は宗教哲学であると評価される。また、柳の民芸思想は宗教哲学とつながっており、民芸運動を理解するためにも柳の宗教哲学の理解は欠かせない。柳の思想に対する影響として、キリスト教や仏教、道教などの宗教が与えた影響については多く論じられているが、柳の著作においても名前の挙がるプロティノスについては、両者の神秘思想の一般的な影響関係は指摘されつつも、ほぼ議論されていないのが現状である。そこで本論では、プロティノスと柳の著作を具体的に比較検討しながら、両者の影響関係や、柳の思想の独自性について明らかにしていく。</p> <p>本稿ではまず、神秘主義的観点から柳とプロティノスの共通点を確認していく。具体的には、言語や論理の限界や、相対的否定を超えた絶対的な否定、神(一者)を捉えることは体験によってのみ可能であることが両者の親和性として挙げられる。</p> <p>次に、実在への希求や知の体系といった神(一者)とわれわれやわれわれの世界に関する両者の思想の親和性を論じる。両者は共に、神(一者)を求めることがわれわれの生の究極目的だとしている。そうした神を捉えることは、通常の知識(通常の知識においては、認識と対象が対立している)とは異なる知識、つまり認識と対象が一致している状態における知識によって可能である。また、こうした絶対者を頂点とした知や存在の階層的な体系を両者の親和性として挙げるができる。ここでは、一者からの発出や一者への還帰、一者の遍在といったプロティノス哲学の骨子が柳の宗教哲学の中に見出されることが確認される。</p> <p>最後に、以上の親和性を踏まえて、柳とプロティノスとの相違点を論じる。ここでは、柳の独自性として二元的一元論と汎神論が挙げられる。これらは柳の自然の美(相対界の事物の美)に対する肯定感情と関係している。この肯定感情ゆえに、柳の宗教哲学はプロティノス哲学の重要な部分を受容しながら、プロティノスとは異なる特徴(二元的一元論と汎神論)を有するものとなっているのである。</p>	
(指導教員の推薦のコメント)	
<p>当該論文はプロティノスと柳宗悦のテキストを比較しながら、プロティノスの神秘主義的思想が柳宗悦の宗教思想に与えた影響、両者の相違を明らかにすることを目的としている。両者の一般的な影響関係をこれまでも指摘されているが、具体的にテキストに言及しながら両者を詳細に比較した研究は極めて乏しい。対して著者は、比較の際の鍵となるコンセプトや思考様式を調査・分類しながら丁寧にテキストを解釈しており、後の研究によって参照される価値が十分にある。また、柳がプロティノスから乖離している点を指摘し、その理由を柳特有の自然観に求めていることは、著者独自の主張として認めることができる。</p> <p>以上に鑑み、当該論文を優秀卒業論文として推薦する。</p>	